



ブックマ



## 『ハンタイおばけ』



トム・マックレイ<sup>ぶん</sup> 文 エレナ・オソリオゾーラ<sup>え</sup> 絵 2006年初版 光村教育図書 貸し出し可(Eの善棚)

ある日<sup>ひ</sup>のこと、ネイトがめをさますと、てんじょうから、ハンタイおばけがみおろしていました。

ハンタイおばけは、なんでも<sup>はんたい</sup>反対のことをします。

たとえば、「おりておいで」といえば、おりてはきません。ミルクをじょうずに<sup>そそ</sup>注ごうとすると、ハンタイおばけがあらわれると、ミルクはてんじょうにむかって<sup>そそ</sup>注がれます。絵の具で絵を描こうとすると、絵の具は<sup>えのぐ</sup>画用紙にはのらずに、てんじょうや先生<sup>せんせい</sup>の方<sup>ほう</sup>へむかっていくので、もう<sup>きょうしつ</sup>教室はめちゃくちゃになってしまいます。

みなさんも、だれかに「～しなさい」とか「～してください」と言われると、<sup>ぎやく</sup>逆のことをしてしまったことはありませんか？よくそんなことで怒<sup>おこ</sup>られたりした<sup>けいけん</sup>経験は、だれでもあるものです。

主人公<sup>しゅじんこう</sup>のネイトは、ハンタイおばけが<sup>はんたい</sup>反対のことをするので、どうしたらよいか、<sup>かんが</sup>考えました。

ハンタイおばけは、ネイトの<sup>ちえ</sup>知恵により、ネイトの<sup>おも</sup>思いのままになってしまいます。

ネイトはどんなことをしたのでしょうか？



とっても<sup>たの</sup>楽しく、そして、「あ～、その<sup>きも</sup>気持ちよくわかる～」と<sup>おも</sup>思えるすてきな<sup>えほん</sup>絵本です。ぜひ、<sup>よ</sup>読んでみましょう。ハンタイおばけも、なぜか<sup>にく</sup>憎めないキャラクターですよ。

